

人と自然が共生する  
東京 BAY の  
サステナブル・リカバリーを牽引する

# Recover Our Ocean

## 葛西海浜

都立葛西海浜公園  
Kasai Marine Park

### 取組みの概要

葛西沖は、昭和30年代からの環境悪化に対応して、豊かな自然環境を再生・保全し、それまであった里海文化を復活させ、平成30年にラムサール条約湿地に登録されるまで回復するなど、**環境をリカバリーしてきた歴史**があります。

東京都は葛西海浜公園の価値をより高めるため、それまで葛西臨海公園と一体となった管理から独立させ、新たに指定管理者を募集し、私たちが令和3年より指定管理者として管理運営をスタートさせました。

公園レガシーを受け継ぎ、「保全・再生、ワイズユース、交流・学習」の3本柱を強化し、葛西海浜公園が**人と自然の共生**を**持続的に**リカバリーする拠点としてベイエリアを牽引し、その**価値を高める**取組を実施してきました。

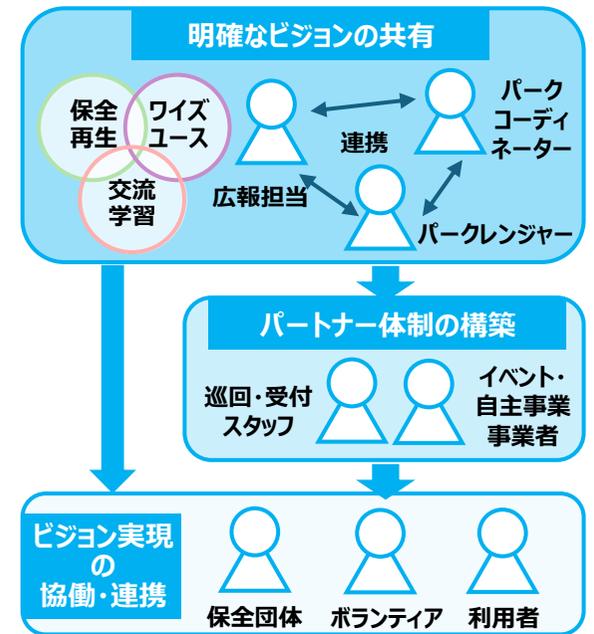
その結果、ラムサール条約湿地のある公園として、多様な成果を生み出してきました。今後は、これらの成果を都会と近傍する生物多様性ホットスポットと共有し、**日本・世界モデルとして発信**を強化していきます。

### 「人と自然が共生する公園」 ビジョンが浸透するパークマネジメント

私たちは、ラムサール条約湿地のある公園として「人と自然の共生」を目指し、一般的な公園管理に求められる**統括的視点**と、生物多様性、協働、広報の**専門的視点**を持った担当者が互いに連携し、公園の価値を高めるための明確なビジョンを共有しています。

さらに、スタッフの自然環境保全への意識の向上を図るため、日常業務の中で巡回・受付スタッフとビジョンを共有するとともに、ビジョンに理解のある事業を実施する事業者を連携先として選定するなど、**組織全体でビジョンを実現していくための体制**を構築しています。

この体制を構築することで、利用者やボランティア、保全団体などの**より多くの人たちにビジョンが浸透**し、多様な協働・連携を実現するパークマネジメントを実施しています。



### 人と自然の共生を回復してきた葛西海浜公園

東京湾葛西沖ではかつて、アサリやハマグリ採取や海苔を生産する漁業が盛んで、海水浴やハゼ釣りの場としても賑わうなど、豊かな自然の中で営み、楽しむ人々の暮らしの風景が広がっていました。しかし、昭和30年～40年代に海の汚染や地盤沈下、ごみの投棄などが深刻化し、かつての風景が失われていきました。

この課題を改善するため、都市と自然が調和した街をつくることを目的とする、東京都の一大プロジェクト「葛西沖開発」が行われました。その開発の中で、三枚洲の自然を回復・保全するため、東西2つの人工なぎさからなる葛西海浜公園が整備され、平成元年に開園しました。

西なぎさは、葛西臨海公園から橋を渡って訪れることができ、多様なレジャー活動のできる砂浜と干潟が再生されています。潮干狩りや海水浴体験、バーベキューなど、海を楽しむ人々で賑わう風景が回復しました。

東なぎさは、生きもののサンクチュアリとして人の立ち入りが制限されており、背後に広大なヨシ原が広がる豊かな干潟環境があります。大都市東京の一隅でありながら、さまざまな渡り鳥が飛来するとともに、絶滅危惧種であるトビハゼやウラギク、アサクサリなど、多様な生き物が生育・生息しており、平成30年にラムサール条約湿地に登録されるなど、豊かな自然環境が回復しました。

### サステナブル・リカバリー実現のための 「東京ベイeSGまちづくり戦略」

東京都は、気候危機への対処を図りながら新型コロナウイルスからの経済復興を目指す潮流を、人々の持続可能な生活を実現する観点にまで広げた「サステナブル・リカバリー（持続可能な回復）」を、東京2020大会において世界に提唱しました。

この観点から、東京2020大会の舞台の中心となったベイエリアを、海と緑の環境に調和したサステナブルな次世代都市として次なるステージに発展させるため、「東京ベイeSGまちづくり戦略2022」を策定。葛西海浜公園は、「戦略1：質の高い緑と魅力的な水辺空間の形成」として、湿地保全が位置付けられています。

# 1 多様な都民との協働・連携で 自然環境の回復が加速

## 現状の課題

- ・サンクチュアリである東なぎさは、長年管理の手が入っておらず、生物多様性・環境を把握できていなかった。また、海洋ごみや漂着した粗大ごみ等が堆積していた。
- ・西なぎさにも多くの生物が生育・生息しているが、実態が把握できてなかった。

## 管理のポイント

- ・多くの市民団体やボランティアが、生物調査や清掃活動など、多様な環境保全活動しており、それらの取組を活性化し、環境保全効果を高める。

### 具体的取組と効果

■ 保全・再生 ■ ワイズユース ■ 交流・学習

## 広域ネットワークの構築による絶滅危惧種の保全

東京湾周辺の開発や気候変動等により急激に数を減らしている**絶滅危惧種の希少鳥類の保全**のため、東京湾で活動している保全団体との繋がりを築き、相互に連携しました。

さらに希少植物ウラギクについては、大学研究室と連携し、周辺団体とともに**広域的なウラギクネットワークを構築**し、保全しています。



## 地域団体との連携による調査・保全活動の拡充！

多様な地域団体から意見を吸い上げ、管理者と地域団体が連携したことで、東なぎさの環境調査や夜間調査など多様な調査が実現。**実態の把握が飛躍的に進ん**でいます。

さらに、地域団体と**実行委員会を結成**し、地域の子どもの育成を目的とした「**かさいキッズレンジャー**」を発足。子どもたちと共に、本格的な貝調査や、希少野鳥の保護区整備を行うなど、**多様な活動を展開**しています。



## 気軽に参加できる清掃活動の仕組みづくりで、参加者拡大！

これまでも多くの清掃ボランティアによって支えられてきた環境ですが、さらに取組みの効果が高まるよう、企業や団体に向けたトンガやごみ袋の貸出を開始しました。また、来園者がちよこごとみ拾いができるイベント開催など、誰もが公園で清掃活動ができる仕組み作りを行い、**都民協働が活性化**しました。



CSR活動によるクリーンアップ



清掃ボランティアの参加者数と団体数の経緯

# 2 保全に寄与する積極的活用で 海の賑わいが回復

## 現状の課題

- ・海のレジャーとして人気のバーベキューは、ゴミの放棄や営巣地の破壊などの多くの問題を有していた。

## 管理のポイント

- ・一般の利用者にも、環境保全の必要性を理解してもらうため、自主事業を行う事業者ともビジョンを共有する。

### 具体的取組と効果

■ 保全・再生 ■ ワイズユース ■ 交流・学習

## ビジョンに理解のある事業者選定

公園ビジョンを理解したバーベキュー事業者を選定したことで、希少野鳥の保護区に配慮した利用調整、水質浄化の取組の協力、プラスチック不使用、ゴミの有料回収、清掃活動の実施など、**事業者発案による多様な保全活動が展開**されています。



バーベキュー利用者と団体数の推移

## 自主事業収入を保全活動に還元

バーベキューの運営、自動販売機の増設、有料イベントの開催など、**売上アップ策を強化**し、横断幕やキャンペーンパンフの作成、営巣地の環境整備、剥製の製作などの**保全活動に充て**ています。



↑キャンペーンパンフレット

↑横断幕

↓剥製

自主事業収入の還元例

## 海の利活用を活性化し支える取組み

**海辺の文化の再生**として、地域のNPO団体と一緒に海水浴体験を開催し海の利活用を活性化しています。そして近隣施設との**合同レスキュー訓練**や、東京海上保安部と連携した安全航行の呼びかけ等を実施しています。



合同レスキュー訓練

# 3 ラムサール条約湿地がある公園としての価値を顕在化

## 現状の課題

・葛西臨海公園の奥に位置し、葛西海浜公園や豊かな湿地環境の存在があまり認知されていなかった。

## 管理のポイント

- ・ラムサール条約湿地がある公園としての価値を多くの人にPRする。
- ・利用促進と環境保全が両立する形で取組みを

## 具体的取組と効果

■ 保全・再生 ■ ワイズユース ■ 交流・学習

### 葛西海浜公園としてのブランディング

公園ビジョンをより多くの人に伝えるため、公園のロゴやテーマカラーを設定し、HPやパンフレット、園内に設置する自販機や横断幕など、統一感を持ったデザインでブランディングを行いました。



パンフレット ラッピング自動販売機

### イベントを通じてラムサール条約湿地を周知

ラムサール条約湿地の登録を記念する周年イベントや、日本釣振興会と共にマナーアップ釣りイベントを実施するなど、様々な年間78件のイベントを通し、累計参加者79,697人(R5統計)に湿地と環境保全の必要性を周知できました。



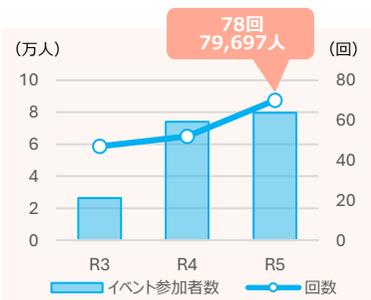
多様な団体と連携してイベントを開催



ラムサール登録記念イベント



ハゼ釣り教室



イベント参加者数と回数の推移

### 多様な媒体を活用した認知度向上

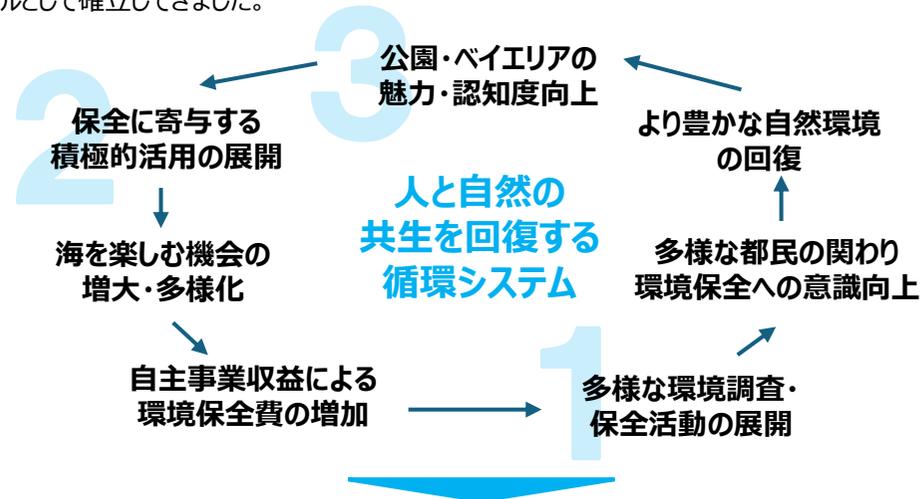
葛西海浜公園の認知度を高めるため、HPや各種SNSの活用、マスメディアへの営業、プレス発表を強化。また、公共交通機関や近隣ホテルと連携した取組などを積極的に行い、公園の認知度が高まってきました。

# 4 これまでの成果と今後の展望

## Recover Our Ocean 人と自然の共生を回復する循環システムの構築

私たちは35年前に回復した人工なぎさの自然を、現代のニーズや状況を踏まえ、多くの人の関わりによって、みんなの海として再び回復させてきました。

そして、この自然環境と海を楽しむ風景を持続的に回復する循環システムを、環境保全モデルとして確立してきました。



### 都会に近傍する、人と自然が共生する環境保全モデルとして確立

### ラムサール条約湿地に関連する管理者との交流

これまでの成果を、ラムサール条約湿地を有するもしくは接する公共施設の管理者と共有するため、谷津干潟自然観察センター（千葉県習志野市）や湖岸緑地（滋賀県）の管理者と交流会を実施し、意見交換を行うほか、相互のイベント連携なども実施しています。



谷津干潟、プリズベン視察団の受入れ・交流

これをさらに発展させ、今後は日本・世界の生物多様性ホットスポットと情報を共有し、人と自然の共生を回復する拠点として、東京ベイエリアのサステナブル・リカバリーを牽引していきます。

